

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	法学研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究者および高度専門職業人の着実な養成を実現するために入試制度を見直し、学位取得プロセス、学位審査基準を明確化し、公表する。	→ 「定員充足率」 「博士前期課程エキスパートコース修了者の就職状況(就職決定率と就職決定先)」 「大学院学生対象の授業評価実施回数」 「大学院入試説明会の開催時期と開催回数」 「大学院広報掲載雑誌数・パンフレット作成の有無」	C	C	B	B	B
	→					
	→					

☆

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科の理念・目的の設定・公表と定期的な見直しの制度化はすでに実現しており、入試制度の見直し、学位取得プロセスと学位審査基準の明確化と公表も2012年度には実現した。しかし、法学研究科の定員充足率は、50%台にとどまっている。学生の水準を維持しつつ定員を確保する上では、大学院広報の充実が求められるが、大学院入試説明会の開催時期や方法の見直しは行われつつあるものの、大きな進展は得られていない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 研究科の理念・目的の設定・公表、入試制度の見直し、学位取得プロセスと学位審査基準の明確化と公表などの取り組みが、定員充足率の改善に結びついていないことが、最大の課題である。税理士や企業法務職など高度専門職業人を目指す学生の入学が一定増加し、本学他研究科に比して多くの入学者数を確保しているが、学生の水準を維持しつつ定員を確保する上では、大学院広報のいっそうの充実が求められる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 法学研究科の広報活動を充実させるため、研究科の理念・目的などを掲載したクリアファイルを新たに作成し、学部生対象の法職説明会、大学院入試説明会などの場で活用することを計画している。学部在生に対する法職説明会、キャリアガイダンスなどの機会に、税理士や企業法務職などで活躍している法学研究科修了生に登場してもらい、高度専門職業人を目指す入学生の確保に努める。	☆
		その他	☆
備考			☆